

## 教育者研究会で学びました!

第55回教育者研究会は、「道德教育の新たな充実をめざして」をテーマに岐阜県下4会場で開催されました。もとす教育者道德研究会は岐阜地区瑞穂会場の共催団体として参画しました。8月6日(月)瑞穂市総合センターあじさいホールを会場に、参加者85名で行うことができました。各教育委員会のご後援をいただきながら、道德教科化を踏まえた研究意欲に満ちた会となりました。瑞穂市26名、本巣市3名、北方町4名が参加。とりわけ本田小学校からは、坂野美恵校長先生をはじめ23名の先生が熱心に聴講されました。3人の副会長(安藤理加、大野琴美、上水流弘美各教頭先生)が絶妙な連携で素晴らしい進行をしてくださいました。心より感謝申し上げます。

開会式は、国歌斉唱の後、岐阜県モラロジー協議会より遠藤兵庫会長の開会挨拶、公益財団法人モラロジー研究所東海ブロック部長・都竹高一氏の主催者挨拶がありました。全国各地91会場で開催されていること、参加者へのお礼や期待を、それぞれ述べられました。

また、開催地を代表して瑞穂市副市長・早瀬俊一様より、現職の先生に向け熱い期待を語るご挨拶がありました。



開会挨拶

遠藤兵庫会長



主催者挨拶

都竹高一部長



来賓挨拶(瑞穂市)

早瀬俊一副市長

### 平成30年度 研修内容

#### 第1講「教師として質の高い生き方を求めて」モラロジー研究所教育者講師 谷渕 篤孝先生

「瑞穂市は岐阜県内で最も若々しい街です」谷渕先生は、人口ピラミッドのデータを示しながら、他の市町村の人口比で瑞穂市は子ども人口が多いことに着目。少子化の時代にあり、若い人口が多いからこそ教育が大事であり、教育に携わる者として、しっかり子どもたちを育てていきたいと呼びかけました。



#### 教師自身が人生の目的、学びの目的、教育の目的を問いただそう

麗澤瑞浪が「荒れた時期」もありました。「我が子を入学させたくないと思うような学校でいいのか」と提起し、共鳴した教師集団が、掃除による環境整備をはじめ、挨拶、声掛けを行いつつ、教師が責任転嫁せず、喜んで仕事に取り組む過程で落ち着きある学校に変わっていきました。教師集団がベクトルを合わせ、常に教育の目的を問いただすことが、教育成果に結びつくようです。

#### 真心を込めて行う

道德とは本来見返りを求めないものです。相手の幸せを願って真心を添えて行うものです。そして「よいこと」を「よい心」で行って、誰かの役に立てた時、何よりも自分自身の心に大きな喜びが生じます。感謝と思いやりの心を発揮して実践するところに、成長があるのです。……

感謝の心を大切にしている母親の子どもの話や「今日の日のありがとう39 挙げる」実践等、心に響く谷渕先生のお話が、参加者に実践の意欲を喚起しておりました。

## 第2講「不易と流行及び評価」

### 第3講「道徳の体験授業

指導の手立てやその意味を学ぶ」

岐阜聖徳学園大学非常勤講師

河合 宜昌先生

河合先生は今年4月から現場を離れ、岐阜聖徳学園大学のお勤めにかわられました。そして『知りたいことがきっとわかる！道徳教育Q&A』日本文教出版（1,500円＋税）を7月上旬梓されたばかりで、現職の先生方の疑問に具体的に回答する講義内容を用意されました。⇒より詳しく学びたい方は是非お買い求めください。

#### 何故「特別な教科 道徳」になったのですか？

「不公平感」と「いじめ」の解消こそ、教科化になった背景であると考えています。道徳が完全実施されることで、豊かな心を育む道徳本来の働きが期待できるということです。

#### 不易といわれる「道徳の特質」とは何ですか？

第一は「計画的、発展的」です。年間指導計画を計画的に実施すること、重点内容項目を設けることは発展的に深めることとなります。

第二は「補充、深化、統合」です。日常の道徳教育で扱うのが希な内容項目は道徳の時間で補充します。日常の道徳教育では不十分な内容項目は道徳の時間で深化させる必要があります。日常の道徳教育で理解がバラバラになっている内容項目は道徳の時間でまとめたり整理したりと、統合するのです。

第三は「四つの理解と一つのかかわり」です。価値理解（価値の意義とよさの理解）、人間理解（人間の弱さの理解）、他者理解（多様な考え方や感じ方の理解）、自己理解（自己を見つめる）と読み物教材の中の主人公と自分とのかかわりです。

第四は「内面的資質の育成」です。道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲、道徳的態度の育成です。高められた価値観から自己を



を見つめることが道徳の時間には求められるのです。

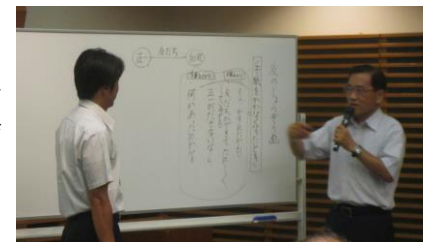
#### 今回は「考え、議論する」が流行のようですが…？

まず、「主体的に」「自分とのかかわりで」考えることです。次に授業では多様な考え方や感じ方と出会い、交流して「対話的な学び」をします。そこで自分の考え方や感じ方がより明確になり「深い学び」となります。全教科のキーワード「アクティブラーニング」は道徳でも「主体的・対話的・深い学び」として位置付けています。

Q&Aは、「評価の記述」等15項目にも及ぶものでありました。

実践を積み重ねた講義内容は、豊かで興味深いものであるために時間が足りなくなりました。「体験授業」が十分出来なかった残念さ

はありますが、読み物資料『友のしようぞう画』を使いながら、議論して互いに考え方を豊かにし合う授業の一端を大羽先生（本田小学校）とのかかわりで見せていただきました。



相手の言ったことを繰り返しながら、そこに自分の考え方や感じ方との差異を重ねていくやりとりに、子どもたちの学びを深めていく可能性を見た思いがしました。



閉会式は、岐阜県教育者道徳研究会・子安一徳会長より、研究会の総括をしていただきました。講師お二人の内容に触れながら、丁寧なお礼を述べられました。また、主体的に学ぼうと参加した先生方の意欲こそ「自らの品性を高め、子どもたちを幸せにするもの」と価値付けていただきました。

岐阜もとすモラロジー事務所の皆様には、会場準備から後片付けまで大変お疲れ様でした。そして、本会からの参加者に参加費のご援助をいただきましたこと、誠に有難うございました。

この場をお借りして厚く感謝申し上げます。 【文責・森山】